

きんもくせい

平成29年12月14日発行
 静岡県養護教諭研究会
 代表 山崎 永子
 (菊川市立菊川西中学校)

健康診断票の電子化の状況

代表者研修会で各地区から質問や話題にあがることの多い「児童生徒健康診断票の電子化」について、現在の状況をまとめました。県内35市町の現在の状況を地区理事の皆様にご協力を得て調査をしました。

問1 H29.10現在、児童生徒健康診断票は電子化されていますか？

はい 10市町	
いいえ 25市町	*このうちH30.4からの電子化 ある 8市町 ない 17市町

☆問2以下は、問1にて児童生徒健康診断票は電子化されている10市町のみ回答

問2 児童生徒健康診断票はどのようなときに印刷していますか？(複数回答あり)

毎年1回 2市町	転出・進学時 9市町	点検など必要時 1市
----------	------------	------------

問3 児童生徒健康診断票の校医印はどのようにしていますか？

校医印なし 9市町	検討中 1市
-----------	--------

問4 進学時はどのように引き継いでいますか？(複数回答・未回答あり)

小学校→中学校	電子データと印刷物 4市町	電子データのみ 5市町
	市外は印刷物 3市町	検討中 1市
中学校→高校	印刷物 8市町	検討中 1市

問5 転入児童生徒の健康診断票はどのようにしていますか？(複数回答あり)

電子データ化する 8市町	送付された健康診断票を使用 1市
その他	転入前の健康診断票は保管する 1市
	健康診断が終了していたら次年度から電子データ化する 1町



地区紹介

賀茂地区



賀茂地区は下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の1市5町で成り立っており、小学校20校、中学校12校の会員数32名で組織されています。

賀茂地区では4つの支部に分かれ、支部ごとにテーマを設定し、研修に取り組んでいます。研修回数は、地区全体で行う研修が年3回です。2回目の11月は、毎年前年度の反省に基づき講師の先生をお招きして講習会を開催しています。

今年度は、「色覚異常・目のけが・疾病」について、下田眼科クリニックの鈴木志保先生を講師に講習会を実施し、知識を深めました。賀茂地区は学校医(眼科医)がいない学校も多く、地域にも眼科が少ないため、日頃の執務の中で受診の判断に迷うことや、疑問に感じることを相談できる貴重な場となりました。

今後も養護教諭としての専門性・資質向上のために研修を積んでいきたいと思っております。



高みを目指す養護教諭

静岡県養護教諭研究会幹事 朝妻 尚美

(裾野市立深良小学校)

平成 28・29 年度の夏季研修会アンケートの集計・集約を担当しました。講演会に対する評価が毎年高く、無事に会を終えることができホッとしています。また、私たち役員への温かいお言葉もたくさんいただき、感謝に堪えません。

さて、アンケートの記述欄には、「講師の先生の講話に感動、共感した」という感想はもちろん、「前向きに取り組んでいきたい、頑張りたい、勉強したい、2学期に子どもと会うのが楽しみ」と、今後への意欲を感じる感想が非常に多く記載されていました。静岡県の養護教諭は、真面目で向上心があるとつくづく感じました。だからこそ、今の静岡県養護教諭研究会が発足され、現在まで受け継がれているのだと改めて思いました。研究会のテーマ「養護教諭の職務をひらき・つなげ・深めよう」のように、私たち養護教諭は常に高みを目指して研鑽を積み、パワーと情熱、優しさと厳しさ、信念と柔軟さ、いろいろな能力を兼ね備えた人たちの集まりです。私もその仲間の一人なんだ！と考えながらアンケートを集約させていただきました。皆さんの熱い思いをうまく集約しきれず、ページ数が多くなってしまいましたが、読み返すとまたパワーが湧いてきます。



ご縁

静岡県養護教諭研究会幹事 清 美幸

(富士宮市立北山小学校)

私は、「ご縁」という言葉が大好きです。市内の先生方を見回してみても、1年ずれていたら出会わなかった先生方もたくさんいる中で、こうして同じ学校で子どもたちのために力を合わせてやっていることを考えると、目には見えない不思議なご縁があるのだろうと感じています。

本校に2回目の勤務ということもあり、当時小学生だった子どもたちが保護者になり、保健室を訪れてくれる方もいます。十数年経っても当時の面影があり、懐かしく感じます。その中で、学校の修繕関係のお手伝いに来てくださった父親は、当時元気いっぱい、「お腹が痛い」「友達と喧嘩をした」「足が痛い」と担任と共に毎日のように保健室に来室していた男の子でした。「先生、うちの子を頼むよ」とぶっきらぼうに言う中に親心を感じ、私の心も温かくなりました。

子ども一人一人に寄り添い、学校・家庭・地域との「ご縁」を丁寧につないでいき、養護教諭の職務を、ひらき・つなぎ・深めていきたいと強く感じています。